

全国大会出場おめでとうございます!

市内の高等学校に通う生徒で、今夏開催される全国大会に出場する皆さんをご紹介します。

「全国高等学校総合体育大会(インターハイ)」に、矢板高校相撲部(個人)、矢板東高校陸上部(個人)、矢板中央高校サッカー部・ソフトテニス部(個人・団体)・ソフトボール部が出場します。また、文化部のインターハイとも呼ばれる「全国高等学校総合文化祭」に、矢板中央高校新聞部(個人)・文芸部(個人)が、「全国高等学校定時制通信制体育大会」には矢板東高校定時制バドミントン部(県選抜団体)が出場します。

陸上競技で競歩 5,000mに出場する矢板東高校の平山さんは、「練習の成果を十分に発揮し、一つでも順位を上げられるよう全力を尽くしたい」と意気込みを話してくれました。



サッカー部(矢板中央高校)

全国高等学校総合体育大会 8月14日(土)~22日(日) 福井県・日東シンコースタジアム丸岡人工芝グラウンド北コート ほか



ソフトテニス部(矢板中央高校)

全国高等学校総合体育大会 団体戦7月29日(木)・個人戦7月30日(金)~31日(土) 石川県・能登町藤波運動公園 ※個人戦に鬼塚・小野崎ペア、深澤・大森ペア、星野・清水ペアが出場します



ソフトボール部(矢板中央高校)

全国高等学校総合体育大会 7月28日(水)~31日(土) 福井県・敦賀きらめきスタジアム ほか



相撲(矢板高校)

大島 佑之(3年)

全国高等学校総合体育大会 8月6日(金)~8日(日) 新潟県・糸魚川市民総合体育館



競歩(矢板東高校)

平山 大将(3年)

全国高等学校総合体育大会 7月29日(木)~30日(金) 福井県・996スタジアム(福井県陸上競技場)



新聞(矢板中央高校)

上田 翔琉(3年)

全国高等学校総合文化祭 8月4日(水)~6日(金) 和歌山県・開智高等学校



俳句(矢板中央高校)

田代 智貴(3年)

全国高等学校総合文化祭 8月3日(火)~5日(木) 和歌山県・有田市市民会館



バドミントン(矢板東高校定時制)

村田 鼓平(3年)

全国高等学校定時制通信制体育大会 8月16日(月)~18日(水) 神奈川県・小田原市総合文化体育館小田原アリーナ

6/14 藍の魅力に染まってね

市役所で、NHK大河ドラマ「晴天を衝け」で藍作指導を行った安沢在住の松由 拓大さんから、市内7校の小学校に通う子どもたちに向けて藍の種が入った小封筒約1,300個が村上教育長に手渡されました。この種はドラマの撮影地で栽培した藍と同じ品種で、子どもたちが藍に興味をもってもらいたいとの思いで寄贈されました。

松由さんは「緑の葉から青色が染まるのは不思議。子どもたちも育てた藍で藍染体験を楽しみ、日本伝統の藍色の良さを分かってもらいたい」と話していました。



▲藍の種が入った小封筒を手渡す松由さん(右) ※5月には松由さんが母校である安沢小学校に講師として出向き、藍の種の配布と栽培指導を行っています。

6/18(金) 空き家対策に情報共有

市役所で、市と片岡四区およびコロナ矢板行政区との間で「矢板市における空き家等対策の推進に係る情報提供に関する協定書」の締結式が行われました。本協定は、市と行政区との空き家に関する情報提供体制の確立を目的にモデル地区となる両行政区と締結したもので、これにより早期に空き家を把握し、所有者に適正管理を促すことで管理不全な空き家の削減を図ります。

両行政区の区長からは「市と連携して、年々増加する空き家問題に対処していけたら」と話がありました。



▲(左)片岡四区行政区内田 隆区長(右)コロナ矢板行政区戸井 出雄区長

6/22(火) 道の駅の防災強化に

道の駅やいたエコモデルハウスで、(一社)日本道路建設業協会から小型発電機が寄贈されました。これは、地域防災計画に位置づけられている道の駅の防災機能強化を目指す同協会が、全国の道の駅に発電機を寄贈する社会貢献活動の一環で行ったものです。この発電機の利用により、停電時にスマートフォンなどの充電が可能になります。

寄贈を受けて齋藤市長は「発電機は道の駅やいたに常備し、一朝有事に備えたい。今後も本市の災害対策の向上に努めていきたい」と話しました。



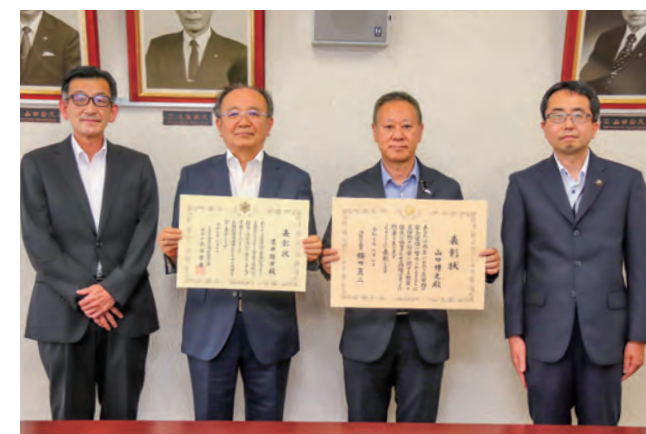
▲(右)(一社)日本道路建設業協会関東支部 杉崎 匡孝支部長

6/22(火) 危険物保安で表彰受賞

消防庁長官表彰(危険物保安功労者)を受賞した矢板地区危険物保安協会の山口会長と、全国危険物安全協会理事長表彰を受賞した同協会の荒井副会長が市長を表敬訪問しました。

山口会長は災害に備え、災害対応型給油所の整備のほか、会員を牽引し地域のライフラインを担うなどの地域防災に尽力した功績、荒井副会長は消防との合同査察への同行など率先して危険物災害防止に尽力した功績が認められ受賞となりました。

受賞を受け両者は「これからも地域の安全安心のために活動していきたい」と話していました。



▲(中左・右)矢板地区危険物保安協会 荒井 隆市副会長・山口 博之会長

6/23(水) 日頃の感謝を花にして

矢板中学校と泉中学校は、日頃お世話になっている地域や関係先に感謝の気持ちを伝える目的でグリーンボランティア活動を行いました。両校とも前年に収穫した種から育てたマリーゴールドを利用して、矢板中学校では代表して生徒会長と緑化委員長から市にプランターで育てた苗を寄贈していただき、泉中学校では全生徒が泉地区を流れる大江川沿いに苗を植えました。

生徒は「コロナ禍で交流することができない中、花を見て心が和み、少しでも恩返しにつながれば」と話していました。



▲矢板中の生徒からプランターの寄贈を受ける村上教育長

6/24 (木) 観光地づくりの司令塔に

矢板公民館で、令和3年度（一社）矢板市観光協会の第1回通常（設立）総会が開催されました。これは、今年4月の法人化後、同協会初となる総会で、名誉顧問を務める齋藤市長など約40人が出席し、近隣の有名観光地にはない「穴場的な観光地づくり」を目指す運営指針などが発表されたほか、本年度の事業計画案や収支予算案が承認されました。

高柳会長は挨拶で「矢板のために、希望の持てる観光協会となっていきたい」と抱負を話されました。



▲挨拶する高柳会長

6/24 (木) 矢板産の豚肉を堪能

乙畑小学校で、矢板産豚肉「和豚もち豚」を使った回鍋肉が地産地消給食として振る舞われました。この給食は、新型コロナウイルスの影響を受けた農畜産物の消費拡大による生産者支援と、地元産の良さを再認識してもらう食育を目的に行われているものです。今回は4月に県内で豚熱が発生したことから生産者支援を兼ね豚肉を使用しており、同様の献立の給食は同日までに市内全小中学校に提供されています。

児童は「今日のお肉はいつもよりモチモチしていておいしかった」と笑顔で話してくれました。



◀給食の時間に、栄養教諭から校内放送と電子黒板を利用して地産地消について説明を受ける児童

7/1 (木) 地域課題の解決を加速

市役所で、「地域活性化起業人」として、市のデジタル化推進に携わる（株）VSNの秋本 一樹さんと観光企画の立案に携わる（株）エムツー企画の萩原 正人さんに委嘱状が交付されました。地域活性化起業人とは、総務省が本年度創設した制度で、市が民間企業から人材を受け入れ、外部の視点で市の魅力向上や課題解決に取り組んでもらうことを目的としています。

齋藤市長は「民間のスペシャリスト人材の力をお借りし、地域課題の解決を加速させたい」と話されました。



▲（左）萩原 正人さん （右）秋本 一樹さん

7/2 (金) 交通安全願う七夕飾り

泉小学校で、矢板地区交通安全協会泉支部主催の七夕の飾りつけが行われました。この活動は、交通安全の推進と事故防止による住みよい地域づくりを目的に、泉小学校の児童や矢板警察署員のほか有志の方が参加し、長年に渡り行われているものです。児童が願いを込めた短冊が飾られた大きな笹竹は、正門前に立てかけられました。

飾りつけを終えた児童の1人は「短冊に『家族、友達、地域の人が事故なく安全に毎日を過ごせますように』と願い事を込めた」と話してくれました。

